

2026 年 7 月 21 日

ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価委員会

ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校
校長 浅賀寿美

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ ビューティ専門学校 大宮校 学校関係者評価委員会は、2025年度（令7年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 開催日時：2026年6月30日（火） 13：00 ～ 15：30

2. 場 所 ：ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校（オンライン）

3. 参加者

学校関係者評価委員

進藤 大	（株式会社 sline 取締役） （日本美容業生活衛生同業組合連合会 渋谷区副支部長）
宮腰 大司	（有限会社HAIR GUEST 代表取締役）
平山 浩篤	（学校法人ミスパリ学園事務局長）
須賀谷 映子	（NPO法人スパ・ウェルネス協会 教育委員長） （学校法人ミスパリ学園評議員）
東 千晶	（ミス・パリ・グループ 副社長）
越川 治枝	（ミス・パリ・グループ 教育部 部長）

事務局

浅賀 寿美	（ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 校長）
榎本 紋子	（ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 副校長）
荒木 弘子	（ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 教育課 課長）

4. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

①学生アンケートにおける改善点

【現状】

本校では、全在校生を対象とし、年に2回（前期・後期）の授業アンケートを実施している。アンケート分析によって、授業内容や教員指導等についての学生満足度を図り、これを基に課題の掘り起こし及び改善に務めている。

2025年度におけるアンケートの実施方法・分析結果は以下の通り。

〔実施方法〕 全在校生対象。無記名式。10項目3段階評価及び記述式のコメントを求める。

→記述式には昨年度までの意見・要望に加え、自身の成長を実感することを記すよう改めた。

〔実施時期〕 前期：2025年7月18日 、後期：2026年3月6日

〔分析結果〕 年間を通してすべての項目で9割を超える満足度を得る結果となった。一方で、「授業中に私語をする人を注意してくれる」という項目については、クラスメイトの授業態度に課題を感じる学生が一部いることが判明した。これを受け、各教職員に評価のフィードバックを行い、規律ある学習環境づくりと指導方法の改善を促した。

記述式アンケートの肯定的意見では、「仲間とともに困難を乗り越え、楽しく充実した2年間でした」「先生が優しく、頑張る気持ちになった」等のコメントが寄せられ、教職員の励みになった。学生からの要望としては、設備に関する声が寄せられた。導入可能な設備は迅速に対応し、見送りとなる内容については学生へ丁寧な説明を行い、理解を求めた。

また、「自身の成長を実感すること」へのコメントでは、「技術の上達により、授業に集中できるようになった」、「以前は諦めていたことも、前向きに頑張る自分に成長を感じる」との声が多く寄せられた。このことから、目標を細分化して達成感を可視化することで、最後までやり抜き、あきらめない心を育てる、本校の自己実現力を育む教育の効果が確認されている。

②自己評価点の理由

【現状】

2025年度は前年の結果を踏まえ、各種施策を講じたことで入学者数の増加をし、評価点を上げる結果となった。学生への細やかな指導を続けてきたことにより、安定した資格の取得率をキープしていることは一定の効果が表れていると自己評価をしている。他方、人員不足などによる業務負担の増加が課題となっている。このことから今回の委員会では、本校の現状について学校関係者評価委員にご説明をし、改善点を洗い出すとともに、改善アドバイス等をいただいた。

(1) 教育活動について

各教科の単元ごとに小テストを実施し、習得度の把握と学生個々に合わせた指導を実施した。理論の苦手な学生は、繰り返し小テストを行い合格点に達するまで強化した。実技が苦手な学生は授業のほかに練習日を設け、レッスンを繰り返し行った。その結果、ビューティセラピスト実技試験全員合格、美容師国家試験実技試験2年連続全員合格、パーソナルカラー検定優秀校に2年連続の表彰を受けた。毎年、学生個々への指導に力を入れてきている成果が表れている。

(2) 学生受入募集について

前年比30名増の入学者数となった。次の3点の施策を強化したことが結果に繋がったと考えている。

- 1, 早期から魅力あるイベントを展開することで、美容業界の魅力、学科の選び方、本校の魅力を明確に伝えた。
- 2, 各イベントに参加することで貯まるポイント制度を導入し、入学までの過程を分かりやすく進められるようにした。
- 3, ヘアメイク希望者への画一的な案内を改め、つきたい職業や学びたい内容を深くヒアリング

したうえで、一人ひとりに最適な学科の提案を行った。

そのほか、担当学生やカウンセラーの配置を工夫し、両学科の構内見学を行った。

(3) 学校運営について

業務分担やシステム導入により業務効率は改善されているが、人員体制の変動に伴う業務分担の再構築が必要な状況。今年度、業務分担を見直したことに加え、教職員の不足を補うために、専門学校生の新卒採用を検討している。

また、学校評価については全職員会議及び学科会議での共有を徹底し、評価結果を実践に取り入れるために、改善計画シートを作成した。それを教育実施記録の目標・課題に明記し、達成状況の確認を年4回実施する。

(4) 社会貢献・地域貢献について

地域の清掃ボランティア、高等学校への施設貸出、小中学生などの低年齢層に向けてのイベント実施は継続的に行っており、街中で労いの声をかけてもらえることが増えた。反面、社会貢献については、SDGsの観点から学内での紙の使用量が多いことについて指摘を受けている。

対策として、環境負担軽減に向けた取り組みを計画的に進める。ペーパーレス化の推進のために、学生への資料や連絡事項のデジタル化をさらに強化、紙の使用量を定期的に集計し、前年度比や月別推移を把握し、削減意識を高める。教職員だけでなく学生にも、省資源、環境保全への意識を高める教育をおこなっていく。

③重点的に取り組む施策（今年度の目標に向けた具体的な対策）

2026年度は「自己実現を磨く教育」に取り組んでいく。学生が小さな成功体験を積み重ねることで、自信をもって学び続けられる環境を整備していく。2026年度の具体的対策として次を設定する。

1. 入学者数アップ

入学定員数の達成をするために、WEBマーケティングの強化をする。SNSを利用し、本校の認知拡大や高校生との関係構築を図る。また、学生主体のオープンキャンパスを充実させることで、学生の主体性を育てるとともに、在校生のリアルな声や熱量により、入学後のミスマッチを防ぎ、将来のキャリア像をイメージしやすくなることで、安心感や志望度を高めることに注力する。

2. 進学・卒業率アップ

多様な観点から学生の報奨機会を設け、成果を実感することで意欲の向上を目指す。日頃目立ちにくい学生にもチャンスがあるような項目を表彰することで、これらの学生を含めた全校生のモチベーション向上と自信の獲得に期待したい。また、放課後の特別授業を取り入れることで、試験や検定への不安を払拭させる。そのほか、学校生活や学習への不安対策のためのメンター制度を導入。上級生は、教えることで自身の学びを再確認でき、新入生は些細な相談ができることや、身近な存在にロールモデルがいることで、近い将来を想像しやすくなる。学校が楽しいと思える施策を実施していくことで、学生が通いたいと思える学校を目指していく。

委員より

委員会では、本校の現状と課題に対し、委員の皆様より今後の成長に向けた貴重なご助言をいただきました。

・「何のために学ぶのか」「習得するとどんな自分になれるのか」を可視化・言語化して伝え、学ぶ目的を学生自身が明確にすることで、主体的な取り組み姿勢を引き出すことが重要である。

- ・業務効率化のためにAI等を積極的に導入し、学生と向き合う時間をより多く確保してほしい。
- ・美容現場では、技術レベルは高まっているが主体性のない社員も増えている。お客様には「自分のためにやってくれているかどうか」が伝わる。自分本位な考え方ではなく「お客様のために何ができるか」を自発的に考えられる人間性を育ててほしい。
- ・若年層の興味の変化に合わせ、スピード感をもって情報発信やアプローチ方法を追及する必要がある。
- ・安定した学校運営は評価する。時代の変化に柔軟に対応し、長期的な視点での発展を期待する。
- ・ヨーロッパでは専門職はプライドを持っており、仕事への実績を高く評価している。広い視野をもって、独自の柱となるものを打ち出し、他との差別化を期待する。

5. 全体総括

2025年度は、学生一人一人の理解度や習熟度に応じた細やかな指導を継続したことで、資格取得や学生満足度の維持につながったことは、本校の教育の強みとして評価できる。学生アンケートでは、成長を振り返る質問を取り入れたことで、自己成長や達成感を得られた意見が多く寄せられた。今後も、小さな成功体験を積み重ねる教育を進め、自己肯定感や意欲を高め、学び続ける力を育てていくことが重要である。一方で、学習態度については課題も見られたことから、教職員が引き続き規律を維持し、授業改善に取り組んでいく。学校運営では、人員不足への対応が課題となっている。AIやICTの積極的な活用による業務効率化を進め、教職員が学生と向き合う時間を確保するとともに、学校評価を教育改善へつなげる仕組みづくりを継続していく。

2026年は「自己実現を磨く教育」を掲げ、「学びたい」、「この学校に入学して良かった」と実感できる学校づくりを推進していく。美容・エステティック業界から必要とされる専門性だけでなく、人間力や社会性を兼ね備えた人材育成を目指し、地域や業界から信頼される学校としてさらなる教育のレベルの向上に努めていく。

以上